

## シリーズ：日常管理のノウハウ

## 第6回 地域とのつながり，人とのつながり

都留 忍

新人管理者の悩みとして、「自分の事業所ではこうやっているが、他の事業所ではどうしているのだろうか。」「前任者に聞いてもわからないことは誰に聞けばいいのだろうか。」と疑問に思うことがあると思うので、筆者の経験を書かせていただく。

高知大学は、朝倉、岡豊、物部と3つのキャンパスがあり、放射線を使用する事業所としては、岡豊に医学部地区研究部門・附属病院（密封・非密封）、物部に遺伝子実験施設（非密封）、海洋コアセンター（密封）と4つの事業所がある。筆者の所属するキャンパスは岡豊である。採用時は、高知医科大学であったので、筆者の事業所と附属病院以外の情報は何も無かったが、高知大学と合併してからは、組織改編に伴い他のキャンパスの放射線関連の業務を通して交流を持つようになった。物部の遺伝子実験施設では、新規登録者に対する教育訓練、各種帳簿の作成を行っている。申請書の変更を行ったときには、原子力規制委員会との窓口として対応した。交流を持つことにより、申請書、帳簿、登録、健康診断の書類等、管理のやり方の違いに発見があった。また、これら事業所の立入検査、定期確認・定期検査に立会対応もしている。朝倉には、学生実習の一環として霧箱作成から放射線の飛跡の観察、更に学生実習用の校正線源の管理を行っている。このように筆者の事業所のみではなく、大学内の放射線に関係することに携わっている。

更に、地域貢献として高知県にある他の大学とも交流があり、高知県立大学、高知学園短期大学から放射線業務従事者を受け入れ、非密封RI実験の共同利用の可能な拠点施設として運用している。また、高知工科大学には、放射線の実習の手伝い、X線業務従事者の教育訓練を行っている。こうした関係から、高知工科大学の放射線施設廃止の時は、環境用モニタ、ガンマカウンター、ハンドフットクロスモニタ等の廃止に伴い廃棄される予定の機器を移設し有効に活用している。

四国では、徳島大学を中心とした四国内の国立大学（香川大学、愛媛大学、高知大学、徳島大学）の

RI施設の連絡体制（四国RI施設ネットワーク）に参加している。日本アイソトープ協会放射線安全取扱部会中国・四国支部においては、研修会アンケート調査、共同利用機器の調査、新規購入希望機器に関する大学間を超えた使用の可能性、その他講習会、講演会の紹介、報告等の活動を通し連携を図っている。

全国的な規模では、旧医科大の放射線管理の人たちで作られた医系グループに参加している。医系グループのメーリングリストを利用し、放射線関係の困ったことを相談すれば、他大学の管理者がこのようにすればいいとか、うちの事業所ではこのようにしているということを教えてくれた。立入検査の情報や、現在の立入検査ではこういう指摘を受けたという情報を共有することで、あらかじめ指摘事項の対応ができた。筆者が対応に困ったことに、他キャンパスのUの湧き出しがあった。Uは、核燃料物資として法律で管理され、RIではないが、放射線関連ということで事務方に対応を依頼された。その当時はどういう対応をしてよいか分からず困っていたところをメーリングリストで相談し、他のキャンパスからの運搬のやり方、運搬の書類、保管に関してアドバイスをもらえた。違う法律で管理されているが、放射性物質なのでRI実験施設で保管するよう指示された時も、メーリングリストでアンケートを取り、管理区域で保管している事業所が無いことが分かり、RI実験施設とは別の共同機器施設の保管庫に保存することで対応ができた。

このように地域、人とのつながりのおかげで、他施設の情報、困ったときの問題解決に対応してこられた。新人管理者になった方には、地域の放射線関連の仕事に携わり、全国の講習会、講演会等に参加し、人とのつながりを積極的に作ってほしい。文化継承会も新しく放射線安全管理に携わる新人管理者を広く取り込み、情報共有や、困ったときに気軽に相談できる場所として機能していけばと考えている。

（高知大学 総合研究センター RI実験施設）